

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370308

研究課題名(和文) 黒人文学の興隆をめぐる、アンダソン、ヘミングウェイ、ウィンダム・ルイスの相克

研究課題名(英文) Interaction of Anderson, Hemingway and Wyndham Lewis, responding to the rise of African-American literature

研究代表者

中村 亨 (Nakamura, Toru)

中央大学・商学部・教授

研究者番号：70328029

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)： アメリカの黒人文学の興隆に対し、アンダソン、ヘミングウェイ、そしてウィンダム・ルイスがどのように応じ、三人の間でどのような相互交渉が繰り広げられたかを明らかにした。アンダソンに関しては、彼の小説 *Dark Laughter* とアフリカ系の作家ジーン・トゥーマーのテキストとの相互浸透を検証した。ヘミングウェイに関しては、*Dark Laughter* からの影響の不安が彼の著作に色濃く現れていること、黒人が彼の物語群で攪乱的な役割を果たしていることを論じた。また、ウィンダム・ルイスが論評したアンダソンへの批判自体が、*Dark Laughter* が表明する白人の不安を反復していることを検証した。

研究成果の概要(英文)： This research clarifies how Anderson, Hemingway and Wyndham Lewis responded to the spread and popularity of African-American literature, especially Harlem Renaissance, and explores the interaction between these three writers as to racial matters. Anderson's novel *Dark Laughter* illustrates the impact of *Cane* on Anderson. *Cane* is a fictional work by Jean Toomer, a mixed-race writer of African-descent, and it challenges the taboo of miscegenation that dominated American Society. *Dark Laughter* reveals Anderson's confused response to that challenge. *Dark Laughter* is mocked by Hemingway and criticized by Lewis, but this mockery and criticism themselves shares the confusion and racial anxiety expressed in *Dark Laughter*.

研究分野：英語圏文学

キーワード：人種

### 1. 研究開始当初の背景

1920年代の英語圏における白人作家とアフリカ系作家との関係を考察した研究そのものが非常に限られており、ハーレム・ルネッサンスとアンダソンを筆頭とするシカゴ・ルネッサンス、ヘミングウェイが代表格であるロスト・ジェネレーションの文学、そしてウィンダム・ルイスによって率いられたイギリスの前衛的な芸術運動ヴォーティシズムの間の、相互関連には目を向けられていなかった。

本研究はその相互交渉の一端を探る、先駆的な試みであったと言える。

### 2. 研究の目的

シャーウッド・アンダソンとヘミングウェイ、ウィンダム・ルイス三者の関係を軸として、黒人文学の興隆に対する白人作家たちの反応と人種をめぐる相互交渉のプロセスを検証する。

それによって、当時の人種的区分と国境を越えた、複数の前衛的文学運動の間のダイナミックな連関の一部を解明することを目指す。

### 3. 研究の方法

(1) シャーウッド・アンダソンとハーレム・ルネッサンスとの関係を、特に彼とハーレム・ルネッサンスの先駆的な作家ジーン・トゥーマーとの関係に焦点を当てて検証する。具体的には二人の著作と往復書簡を中心に検討を加える。

(2) 人種問題をめぐるアンダソンとヘミングウェイの間の相互交渉を、往復書簡と二人の著作、特にアンダソンの小説 *Dark Laughter* とヘミングウェイによるそのパロディ *The Torrents of Spring* の関係に注目して検証する。なお、*The Torrents of Spring* に関しては完成稿だけでなく執筆途中の草稿も含めて検討する。

(3) ヘミングウェイ文学においてアフリカ系アメリカ人がどのように扱われているかについてテキストを中心に分析する。分析においては完成稿だけでなく、できるだけ草稿にも目を向け、執筆時のヘミングウェイの、人種をめぐる試行錯誤の過程に光を当てる。またアフリカ系アメリカ人の扱いについては、*The Torrents of Spring* 執筆前と執筆後の違いあるいは変化にも留意して検討を進める。

(4) ウィンダム・ルイスの、人種をめぐるアンダソン、ヘミングウェイとの関係、そしてハーレム・ルネッサンスへの反応を、それらの事柄についての彼の考えが展開されている評論 *Paleface* を中心に考察する。彼の見解を広く同時代の思潮の中に位置づけるため、評論で言及されている著作や同時代の事象について調査するとともに、ルイスの著作に言及している同時代の出版物にも目を向ける。

### 4. 研究成果

(1) アンダソンと、ジーン・トゥーマーを中心とする同時代のアフリカ系作家との関わりについて、これまで明らかにされてこなかった事実やつながりをかなり探り出すことができた。

まず、出版された書簡集には収められていないアンダソンとトゥーマーの往復書簡の現物を、イエール大学図書館に向いて調査したところ、文学者は人種差別への抗議という政治的立場からは切り離された地点から創作を行うべきだというアンダソンのトゥーマーへの助言は、国境を越えた広範な黒人解放運動を否定的なかたちで念頭に置きながら発せられたものであることが分かった。この悪名高い忠告は、従来の研究では二人の作家の間の個人的な関係という次元で、アンダソンの人種問題への関心の希薄さの表れとして理解されてきた。だが調査で発見した手紙ではトゥーマーへの助言は、アンダソンがイギリスで出会った黒人運動家への批判と一体となっており、トランスナショナルな黒人運動のうねりに対する反発が彼の発言の下敷きになっていると考えられる。

さらに、アンダソンの *Dark Laughter* とトゥーマーの *Cane* を比較し、執筆前後における二人の往復書簡も参照しつつ検討した結果、*Cane* におけるアメリカ社会の人種差別と混血タブーの暴露にアンダソンが強い衝撃を受け、その衝撃による混乱が *Dark Laughter* に反映されていることを浮き彫りにすることができた。

(2) ヘミングウェイのアンダソンとの関係に関しては、これまでの一般的な見方とは違って、ヘミングウェイが *Dark Laughter* で曝け出される人種的不安を深刻に受け止めながら、その不安を自らの文学作品において引き継いでいることが分かった。彼のパロディ小説 *The Torrents of Spring* では、*Dark Laughter* で劇的に物語られている、黒人によって白人が観察され、嘲笑われるという恐怖が強迫的に反復されているのである。

また、*The Torrents of Spring* をその草稿も含めて検討し、彼の書簡とも照らしあわせてみたところ、黒人文化および移民を中心とする多民族文化の融合による新たなアメリカ文化創造を謳いあげる同時代の文学者・批評家の主張を、ヘミングウェイが作品執筆の初期においては強く意識していたこと、それも危機意識を持って受けとめていたことが分かった。

一方で、*Dark Laughter* に対するヘミングウェイの反応は、戦争により精神的外傷を負った白人兵士をアンダソンが敗残者として提示し、その精神的不安定さを自己抑制を欠く黒人のイメージと結びつけたことへの反発とも結びついていると考えられる。

(3) ヘミングウェイはアフリカ系アメリカ人に対してはほとんど関心を抱いていなかったという見方が、黒人女性作家トニ・モリ

ソンによる批判に代表されるように広く行き渡っているが、彼の幾つかの作品の草稿を調査した結果、アフリカ系アメリカ人の描き方についてかなり慎重な注意を払い、逡巡し、迷い続けていたことが分かった。

そのことを典型的に示しているのが、Jimmy という少年を主人公にしたヘミングウェイの未完の小説の一部である。そこには黒人に対する社会の不当な取り扱いに憤るアフリカ系アメリカ人のポーターと主人公との長い対話があり、その部分は没後に短編として出版された。これまでほとんど無視されてきたその短編を、ヘミングウェイのアフリカ系アメリカ人への理解の現れとして評価する批評が近年現われたが、草稿を見ると、この肯定的な批評家の見解よりもヘミングウェイの姿勢は一層複雑でアンビバレントに満ちたものであったことがうかがえる。

意外にも、出版されたポーターと少年との対話は、草稿では一旦書き上げられたあとヘミングウェイ自身の手によって削除され、まったく別のエピソードに書き換えられていたのである。そのエピソードとは、同性愛者とおぼしき男性二人組と主人公との出会いについての話で、そこにはポーターはほとんど登場せずまったく発言しない。

二人組のうちの一人は少年の父の身元について詮索し、革命家であることを周囲に隠している父は男の質問を必死にはぐらかそうとする。一方男も、自らの性的志向を隠しつつ父を誘惑するようなそぶりを示す。

この一見不可解にも見える書き換えから読み取れるのは、第一にヘミングウェイがアフリカ系アメリカ人の内面に入り込んでその心情を描こうとしながらも躊躇し、最終的にはその試みを断念したということである。彼には、アフリカ系アメリカ人の心理を理解するよりも白人の同性愛者の心理を理解する方が幾分は容易に思えたのだろう。

第二に、この書き換えからは、内面を隠すための演技、外見と内面との不一致という事柄へのヘミングウェイの関心の持続を読み取ることができる。革命家であること、同性愛者であることをそれぞれ隠す父と男にとって演技は必須であるわけだが、書き換え前のポーターも通常は内面を隠し演技を続けることを強いられる存在であり、ヘミングウェイが一貫して描こうとしたのは、ありのままの姿を社会に受け入れられず、感情を隠して演技を続けなければならない人間の耐えがたい緊張とフラストレーションであったと考えられる。

そしてこうした演技を強いられる人間の抑圧状態を、ヘミングウェイが様々なかたちで試行錯誤しながら書こうとしたのは、彼自身が当時自らの戦争のトラウマによる精神の不安定さを隠しつつ執筆活動を行っていたからではないか、という考えに至った。

彼は最初は黒人、次に人目を忍ぶ同性愛者と革命家というペルソナを用いて、直接語る

ことができない自らのフラストレーションを表明しようとしたのではないだろうか。

そして黒人というペルソナを使うことを断念したのは、アンダソンによる黒人表象をすでにパロディで批判していたために、彼自身が黒人を描くということに対してそれ以前よりも一層慎重にならざるを得なかったからではないか。あるいは同時代の黒人作家の台頭を意識し、白人である自分は黒人の内面を描く立場には立てないと考えようになっていたのかもしれない。もっとも、これらの理由づけはいずれも推測の域を出るものではないので、今後さらに検討を続けていきたいと考えている。

(4) ウィンダム・ルイスは文学評論 *Paleface* においてアンダソンの黒人文化への傾倒と接近を批判し、アンダソンの黒人表象を揶揄したヘミングウェイのパロディを高く評価しているが、評論の全体を読んでみると、その主張の核心にあるのは、彼の言葉を用いるなら文化の〈混血〉への忌避であることが明白に分かる。

そしてこの評論ではハーレム・ルネッサンスは白人の文化を社会の周縁に追いやるうとする脅威として捉えられており、さらにそのアフリカ系作家による著作の一つでルイス自身が始めた前衛的芸術運動ヴォーティシズムが観察の対象にされ、意味づけられていることを知った衝撃が語られている。評論の中で言及されている他の多くの文化的事象や出版物の解釈においても、繰り返し語られるのは白人が非白人によって見られ批判的に捉えられることへの恐れである。このことは、ルイスが批判する *Dark Laughter* で語られている恐怖、白人が黒人に見られ嘲られる恐怖がルイスにとって真に迫るものであり、その不安を彼自身のテキストで反復しているのを示すものとして読み解くことができる。

そして *Paleface* に対する同時代の批評と受容を調べてみると、同種の不安が当時の白人の間でかなり広く共有されていたことが確かめられる。ルイスはナチズムを礼賛する自著の中で、非白人文化との混交によって白人文化の純粋性と優位性が脅かされていることへの危惧を極めて明確に語っているが、こうした文化混交への危機感が、決して彼のような極右思想家に限られたものではないことが分かった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

中村亨 「白人らしさ」の仮面 自己抑制と処刑、『武器よさらば』、ヘミングウェイ研究、査読あり、18号、2017、pp. 29-39

中村亨 ウィンダム・ルイスとシャーウッド

ド・アンダソンと非白人の眼 *Paleface* と *Dark Laughter* の人種的不安、日本英文学会第 88 回大会 Proceedings、査読なし、2016、187-188

〔学会発表〕(計 5 件)

中村亨 「白人らしさ」の仮面 自己抑制と処刑、『武器よさらば』、日本ヘミングウェイ協会第 27 回全国大会シンポジウム、2016 年 11 月 19 日、関西学院大学

Toru NAKAMURA “The Porter”: Editor’s Alterations and the Intersection of Race and Sexuality, The Hemingway Society International Conference, 21 July 2016, Oak Park, Illinois

中村亨 “Porter” 草稿を読む 編集が孕む問題と、アフリカ系アメリカ人をめぐるヘミングウェイの逡巡、日本ヘミングウェイ協会全国大会発表、2015 年 12 月 12 日、東京 ユビキタス協創広場 CANVAS

中村亨 ウィンダム・ルイスとシャーウッド・アンダソンと非白人の眼 *Paleface* と *Dark Laughter* の人種的不安、日本英文学会関東支部 2015 年度秋季大会発表、2015 年 10 月 31 日、慶應義塾大学日吉キャンパス

Toru NAKAMURA, The Impact of Sherwood Anderson’s *Dark Laughter* on Hemingway: Traumatized Soldiers and the ‘Negro’ in *The Torrents of Spring* and *The Sun Also Rises*, The Hemingway Society International Conference, 23 June 2014, Venezia

〔図書〕(計 2 件)

中村亨 論創社、ターミナル・ビギニング アメリカの物語と言葉の力、2014、80-104

中村亨 臨川書店、ヘミングウェイと伝記、2017 年出版予定

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1) 研究代表者  
中村亨 (Nakamura, Toru)  
中央大学・商学部・教授  
研究者番号：70328029

(2) 研究分担者 ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号：

(4) 研究協力者 ( )